

2019年度「自由を生き抜く実践知大賞」ノミネート一覧 実践事例概要

NO	実践主体	実践事例名称	実践事例概要
1	生命科学部	法政大学植物医科学センター	概要:植物医科学センターは、植物の病気・虫害・生理障害及び植物育成地の自然環境保全・修復等に関する検査・診断・研究、それらに関する助言・情報の提供を行う機関として、2014年度に当学科内に創設され、活発に活動を展開している。 成果(2014年6月～2019年3月):この5年間で、研究協定9件、委託・寄付研究18件の研究診断契約が締結された。また、樹木病害やダニ類の診断同定依頼を中心に、142件の診断依頼があった。技術研修は17回開催され、のべ525名以上が参加した。また、47回の出前講座・講義を行い、のべ2,170名以上の参加者に対して植物医科学の講義・講演を行った。さらに、近年ではカリフォルニア大学リバーサイド校等の国際的に著名な研究者を招聘して学外の学生も交えた公開セミナーを企画し、教育や研究の成果を社会に発信している。
2	新聞学会・市ヶ谷ボランティアセンター学生スタッフ	法政大学新聞1041号「特集 バリアフリー調査」	法政大学新聞学会では2018年の夏期休暇期間に市ヶ谷ボランティアセンター学生スタッフと共同で3キャンパスのバリアフリー調査を行いました。各キャンパスでは全ての廊下と特徴的な教室に車イスで巡回し、車イスでも利用しやすいか調査しました。また、手すりや点字の有無についても調べました。法政大学新聞学会ではその結果をバリアフリー特集という記事にまとめ、法政大学新聞1041号に掲載しました。その結果、2018年度の朝日新聞社主催、大学新聞コンテストの一般新聞部門にて記事賞を獲得しました。
3	第二中・高等学校	「健康・安全講習会」実践 ～H2 BLSE (Basic Life Support Education)～	主な代表的実践: 長期にわたる安全教育の継続的実施。特に、生徒の死亡事故を契機に取り組んだ健康安全講習会などの研修の充実、全国に先駆けた校内に複数台のAEDの設置・使用方法の理解の促進。 ①2007年 東山書房「教職員と保護者のための心肺蘇生法とAED」DVD作成協力 日本蘇生学会企画/監修の映像資料作成に特定非営利活動法人日本ファーストエイドソサエティと共に施設使用提供および映像作成協力 ②2015年ガイドラインを導入した実際の場面を想定したシミュレーションによるグループワークなど参加型の校内研修会「健康・安全講習会」の実践 ③2016年「救急蘇生法かんたん習得コンテンツ」の作成およびYou Tubeにアップ 2017年 コンテンツを取り入れ動機づけた校内研修の実践
4	情報科学部	ガラス箱オフィスアワーセンター(GBC)	情報科学部では、「授業や勉強方法、簡単な学生生活上の悩みを気軽に相談できる場」を学生に提供すべく、2009年度にガラス箱オフィスアワーセンター(GBC)を開設、現在まで継続している。運営は、学生アシスタント(学部生(SA)/院生(TA))・教員・相談員(臨床心理士の資格を持つカウンセラー)の三者が一体となって行っている。 普段は学生の学習サポートが主な活動であるが、その他にも、学生アシスタントの発案で様々な企画を行っている。(例として、英語力の向上を図るための学部独自の「イングリッシュコーナー」、(科目別質問者数の分析結果などをもとにした)特定科目の「対策講座」や「プログラミング講習会」、学生と教員の距離を縮めるための「GBC懇親会」など。) 2018年度には延べ2,194名が来室。中でも1,2年生の来室者が全体の7割強を占めており、低学年の学生生活サポートに一役買っていることが伺える。
5	2019年度 課題解決型フィールドワークfor SDGs 集中講義 受講生グループ	大学キャンパスでの避難生活デザインワーク ～豊かさや包摂性を追求した避難生活～	第1日目 我が国における避難所生活の課題整理(講義とグループワーク) 第2日目 避難生活の「包摂」「豊かさ」のデザイン(同上) 第3日目 地域資源の生産現場視察(学外フィールドワーク/林産物・農産物・織物) 第4日目 豊かな避難生活ツールのデザインと模型制作(生活行動ごとの検討) 第5日目 テント等の設営と模型の設置による避難生活模擬体験 5日間を通してグループワークにより、課題の共有、デザインコンセプト、地域資源の確認、地域資源を用いた豊かさのデザイン、避難生活ツールのデザインと模型制作、模擬体験の実施
6	経営学部 / 第二中・高等学校	『高校生の経営学』出版プロジェクト	洞口治夫・小池祐二編著『集中講義 高校生の経営学 経営学部の受験を迷っている人に』(文真堂)を出版した。 参考資料: http://www.bunshin-do.co.jp/catalogue/book4993.html
7	スポーツフェスティバル学生実行委員会	スポーツフェスティバル	多摩キャンパス竣工の1984年から現在に至るまで毎年実施している恒例イベント。多摩キャンパスの広大な体育施設を活かして10種目以上の競技が実施されている。当日は授業を休講にして実施しており、大学公式のものとしては法政大学唯一にして最大の学生交流イベントである。「新入生の歓迎」「学生同士・学生と教職員の交流」を目的としており、毎年1000名前後(実参加者数)の学生が参加している。2011年からは学生実行委員が運営の主体となり、学生独自の視点を取り入れたユニークな企画がイベントを盛り上げている。
8	学生センター厚生課、学生RA	法政大学学生寮 RA(レジデントアシスタント)	法政大学の学生寮ではレジデンスアシスタント、通称RAが活動しております。RAの役割は寮に住む学生のサポート(新入学生の受け入れや留学生のサポート等)や、より充実した学生生活となるようイベント企画など、その活動内容は多岐に渡ります。 通年、活動を行っておりますが、中でも具体的な活動内容として、4月の新入生歓迎会の企画があります。寮の歓迎会はただ楽しいものであればよいというわけではありません。「これから生活をともにする寮生に安心感を与えること」を目的に企画しております。寮は主に遠方生が入寮しております。上京した時の気持ちがわかる分、頼りになるRAという存在を知ってもらいたいという思いから、まずはRAが先頭に立ち自己紹介をします。また学校での生活がスムーズにスタートできるよう履修の相談会を開催や、友人を作りやすいよう多くの学生と話ができるようなゲームを企画します。歓迎会終了後の満足度は95%という結果になりました。新入生歓迎会以外にも、BBQやスポーツ大会など年間を通してイベント企画を行っております。その他にも、共用部の使用について、全員が気持ちよく使用できるようルールの周知を行うこと・来年入寮を検討している受験生の寮内見学等もRA活動の1つです。以上のような活動を通し、寮生活により何倍も学生生活が充実したものになるよう日々活動を行っております。
9	日本語教育プログラム(JLP) 学生スタッフ	日本語教育プログラム(JLP) 学生スタッフのボランティア活動	主に日本語を勉強する留学生の学生生活サポートおよび日本人学生との交流の場を創出するボランティア活動。 ・Jラウンジの運営(授業以外で日本語を使える留学生と日本人学生の交流の場、週2～3回程度お昼休みから午後の時間にかけてGラウンジ内で実施) ・ミニイベントの実施(若者言葉かるたイベント、キャンパスツアー、お正月体験など) 2017年秋から活動を開始。メインで活動する学生は10名程度。
10	国際高等学校	PASS(The Program “Your Awareness Saves Society”)	国際高のSGH(スーパーグローバルハイスクール)の1つの実践であり、社会参加活動を行うPBL型の学びである。「多文化共生」、「グローバル・キャリア」、「エンバイロメンタル・スタディーズ」の3分野において、持続可能な社会の実現を探究する生徒主体の取り組みを行っている。 具体的には生徒が各自の関心に基づきチームをつくり、①チームで取り組む社会課題を設定し、②その解決に向けて、NPO・企業等に調査・取材を行いながら具体的なアクションを実行し、③プレゼンテーション等の発信と振り返りを行って、次の課題の再設定へと進む、という取り組みである。「総合的な探究の時間」の一部もあって、さらに放課後や夏休みに生徒が自主的に活動することが主になる。 アドバイザーなどの教員と、各領域の生徒代表から構成される会議体であるREPS(Representatives' meeting)が協力してコーディネートし活動を推進する。ポスター発表やプレゼンテーションを実施する発表会をもち、代表者は海外プレゼンテーションに派遣されてきた。